

「映画を創ってみよう!! シナリオ編・撮影編」実施報告

「プロとともに 仲間とともに 映画を創ってみよう!!」

- 趣 旨：子どもたちが実際に映画創りを通して、自分の思いを伝える力や相手の立場に立ち考える力などのコミュニケーション能力を養うことを目的とする。また、創った映画をアジア国際子ども映画祭に出品することを通して、子どもの文化芸術体験活動の普及啓発を図る。
- 日 時：【シナリオ編】平成28年6月18日(土)～19日(日)
【撮影編】平成28年7月16日(土)～18日(月・祝)
- 場 所：国立淡路青少年交流の家
- 対 象：中学1年生～高校3年生 6組（1組5名前後で申込）
- 参加者：4組13名(中学生 男性1名、女性11名)
(高校生 男性1名、女性 0名)
※シナリオ編参加 南あわじ市地域おこし協力隊
(男性1名 女性2名)



6 講師

【シナリオ編】

田子 明弘 氏 (脚本家)

【撮影編】

藤 嘉行 氏 (映画監督)

瀬川 龍 氏 (カメラマン)

7 指導補助

【撮影編】

武藤 成美 氏 (京都造形芸術大学映画学科 職員)

田林 彩 氏 (京都造形芸術大学映画学科 学生)

植木 咲楽 氏 (京都造形芸術大学映画学科 学生)

瀧沢 千裕 氏 (京都造形芸術大学映画学科 学生)

8 ボランティア

【シナリオ編】

大塚 美咲 氏 (帝塚山学院大学)

岩本 教佑 氏 (立命館大学)

【撮影編】

大塚 美咲 氏 (帝塚山学院大学)

岩本 教佑 氏 (立命館大学)

横山 稚 氏 (吉備国際大学)

神野 卓也 氏 (吉備国際大学)

9 プログラムの内容

～シナリオ編～

《6月18日(土)》

プログラムの冒頭に脚本家の田子明弘氏から、「ゼロからモノをつくることを楽しむ、そのことに熱中する2日間にする」という目標が提示された。

アイスブレイク

・『ジェスチャーゲーム (言葉を使わずに相手に意思を伝えるゲーム)』では、お題を体で表現し、何を表しているかを当てるゲームをした。

・『想像力①』(見えない平均台)では、想像上の平均台を演技で表現。平均台の高さなどの条件もかわり、その違いをどう表現したらよいか、また見ている方はどう感じ、どう表現したら伝わるのかを学んだ。



キーワード

・『私の嫌いなこと』について、具体的に各自10個書き出した。「勉強」「いじめ」「テスト」「ひとりぼっちになること」「静かにすること」などが出てきた。その中から、各自テーマを選び、ハコ書き（シーンごとに登場人物や出来事、セリフなどの内容をまとめたもの）を作成した。自分の言いたいことを演技やセリフでどのように表現するかなど想像を膨らませた。

《6月19日（日）》

シナリオ作成

・『私の嫌いなこと』について各自シナリオが仕上がった。田子講師からアドバイスを頂き全員の作品が仕上がった後、各グループで話し合いをし代表作を1つ選んだ。文字として書かれたものが、肉付けされ、映画作品として少しずつ形となっていった。

シナリオ編の最後には、代表シナリオの読み合わせを行った。撮影編に向けて、各グループで作品を推敲し衣装・小道具・キャストینگなどの準備を行なった。



～撮影編～

《7月16日（土）》

事前に映画監督の藤講師より各グループに対して撮影編に入るまでの課題を提示した。

〈課題1〉 作品のテーマは何か！（シナリオから読み解く）

〈課題2〉 テーマを見る人（観客・視聴者）に伝えるには！（伝えるための最善策をイメージ）

提示された課題に対する各グループの思いを確認し撮影編が始まった。

・参加者のほとんどが昨年度も映画創りに参加していることもあったため、すぐに役割分担をし、シーンごとのイメージに合うロケーション探し（ロケハン）に出掛けた。



いよいよ撮影開始！！



「暗くなってきたけど、夕方のシーンを撮影するにはどうしたらいいだろう？」

「世界中を旅するシーンはどう表現したらいいだろうか？」

「空から、人が落ちてくるシーンってどうしよう……」

などグループで悩みながらも監督・カメラマン・撮影補助スタッフの皆のアドバイスを参考に参加者の思いが、少しずつ形になっていった。

《7月17日（日）》

2日目！終日撮影日



・各グループで、朝からそれぞれの撮影場所に出掛けた。交流の
家内の研修室を学校の教室のようにみだたグループは、自分た
ちが演じた映像をテレビ画面（モニター）に映し出し確認。「間が
もう少しあったほうがいい」、「別カットで撮ってみよう」、「共
演者同士体が重なっている」などの意見が出た。モニターを見つ
める姿はプロ顔負けの表情であった。

・グラウンドでのランニングのシーンを撮影したグループは、セリフの声より土
を蹴る砂の音の方が大きく、声が聞こえにくい状況だったので声だけの撮影も行
った。声だけの撮影に、音が入ってしまわないように、周りの物音にも気を付けな
がら撮影を行った。はじめは何度もNGがでてしまい、声だけの音撮りの大変さ
を感じていた。



《7月18日（月）》

編集作業

・撮影が終わったグループから編集作業に入った。あるシーンと別のシーンや場面を違和感なくつなぎ合
わせる作業はとても大変だった。イメージどおりうまくつなぎ合った時、「うまくはまった、最高に気持ち
いい！」と参加者の声があがった。またタイトル・エンディングにもこだわりをもって作品創りを
行っていた。



上映会（創った作品をみんなで見る）

・各班の作品の上映会を行った。上映会後に作品創りで苦労したことや撮影中のエピソードを発表した。共
演キャストからの一言では、大きな笑いが上がり、和やかな上映会となった。作品に対して各グループの熱
い想いが参加者に共有された。



今回の映画創りのタイトルテーマであった「プロとともに 仲間とともに」の言葉どおり、皆で協力し合い作品を創りあげることが出来た。



シナリオ編

撮影編

10 参加者の声

《シナリオ編》

- 「映画なんか簡単に作れるやろう！」って思っていたが、ハコ書きやシナリオ創りが非常に難しく苦戦した。撮影編では、素晴らしい作品を創りたいので、仲間とともに協力してがんばります。
- シナリオの作り方や表現方法などいろいろなことが学べて楽しかった。
- 自分の思っていることがうまく書くことが出来ないのが大変だった。
- 書くことが大変でしんどかったけど、シナリオができた時の達成感がすごくとても楽しかった。

《撮影編》

- みんなと協力して1本の映画を創れてよかった。
- 他のグループの人が自分たちの作品の撮影に協力してくれて嬉しかった。
- また、来年も参加したい！



11 所感

今年度は、小・中学生から中・高校生へと参加対象を変更して事業を行った。シナリオ編・撮影編ともに長時間のプログラムの中でもより集中して取り組むことが出来ていた。何度か映画創りに参加している子どもたちは、シナリオ作成や撮影作業に関しても、初めての参加者に比べて想いを形にすることがスムーズにできていた。

また、講師・撮影補助スタッフには昨年度に引き続きご協力いただいたこともあり、プログラムの内容も事業運営もスムーズに進んだ。

昨年度はシナリオを書き上げることが出来なかった参加者が、今年度は自分の作品を創り上げることができたり、こだわりをもってカメラを回したりするなど、成長し、満足した表情を見せていた。

1名での参加が2組あり、1名では作品を創り上げることが難しかったが、他のグループにキャストを頼むなど参加者皆で協力し、お互いの作品を創り上げていた。